

改善1. 中高等部クラスの見直し

(問題)

現状の中高等部クラスは、下記の現状を考慮すると見直しが必要と考えられる。

- クラス編成
- カリキュラム

(内容)

(クラス編成の現状)

昨年度まで、児童6から進級してきた生徒を中高等部1にまとめ、それ以上の高学年の生徒を中高等部2にまとめるクラス編成であった。しかし、今年度の中高等部1は、児童6からの生徒が4名と少人数であったので、昨年度の中高等部1にその4名を吸収するかたちとなった。現在の生徒数は、中高等部1に12名、中高等部2に9名、現児童6に10名で、トータルで31名。この生徒数では、来年度従来どおりの2クラス編成で対応することは難しいと考える。

(カリキュラムの現状)

昨年度は、中高等部1で国語4と国語5の教科書、中高等部2で国語5を取り入れているが、国語5下の教科書は教材として難しく、漢字の読みを含め詳細な説明無しに理解できる生徒が現状限られていた。国語の教科書のレベルを上げることは生徒の日本語レベル、実用性(日常で使用頻度の低い漢字の学習など)から離れていくほか、小学生中学年の日本語レベルで、中高等部生徒の興味を引く教材を見つけることも容易ではない。今年度より理科、算数、社会などを取り込んで、小学4、5年生レベルの授業内容へと変更している。

(目的)

- 学年終了時の習得目標の設定と、それを翌年へと繋げていけるようなカリキュラムを設定する。
- 日本語学習を継続していくことの意味を明確化する。
- 年齢があがるほど継続者が減る傾向にあり、年齢構成だけではないクラス編成およびカリキュラムを設定する。

改善2. 2016年度幼児・中高等部の教室確保

(問題)

現状のクラス数、ウェーティングリストを考えた時、2016年度には物理的2クラス増設する必要性が高く、この為、来年度までに、新たに2つの教室を確保する必要がある。

(内容)

近年の生徒数増加に伴い、幼児1、2は現在、昨年度より1クラス多い3クラス体制で授業が行われている。このまま自動的に生徒が進級することが予想されるので、来年度の幼児3は1クラス増設する必要性が考えられる。また、中高等部も現在各クラス12名と9名の2クラス体制だが、来年度児童6の10名が多数進級する可能性があるため、3クラス体制で対応する必要がある。

これに加え、現在各10名、11名の2クラス体制をとっている児童1は、例年減少する傾向にあることを考慮すると、来年度の児童2は従来どおり1クラス体制で概ね対応可能だと思われるが、多数進級することになった場合には、2クラス体制に移行せざるを得ない。

現在、センターが賃貸している3階および4階の教室はすべて使用中であり、何らかの対策を行う必要がある。

(目的)

- スムーズに生徒が進級できるように準備する。
- ウェーティングリストの生徒を受け入れやすい体制を整える。
- 今後(来年度以降)の生徒数増加に対応する。

(資料)

(2015年度4月現在)

クラス	生徒数
中高等部2	9
中高等部1	12
児童6	10
児童5	6
児童4	12
児童3	11
児童2	15
児童1	10
児童1	11
幼児3ほし	15
幼児3つき	15
幼児2みかん	14
幼児2もも	14
幼児2さくらんぼ	14
幼児1うさぎ	15
幼児1ぱんだ	15
幼児1こあら	15
合計	213

改善3. 成人クラスの見直し(オプション時間が余れば)

(問題)

現状の成人クラスは、下記の問題があり見直しが必要と考えられる。

- 財政的問題点
- 主旨的問題点

(内容)

(財政的問題点)

成人クラスは例年、新学期は全クラスで50-60名の生徒数に達していても、夏休み明けの2学期、年明けの3学期になると40名を割り込む傾向がある。3学期にはクラスによっては、2、3名の少人数で授業を行っている状態にある。昨年度の会計によれば、成人1、2が黒字で、3、4、5は赤字だとのこと。部屋の賃貸や先生への謝礼は年間費用(固定)なので、これらの赤字はほか授業料(幼児、児童)から補足されていると考えられる(資料 2012年1学期と3学期成人数参照)。

<訂正>

成人3、4、5は2学期以降、昨年度会計がだした1クラスあたりの収支に見合う生徒数を割る数字(赤字)ではあったが、この赤字補填を幼児・児童クラスの受講料で補足していたわけではなかった。

(主旨的問題点)

もともと成人クラスは保護者の日本語教育の為に始まったと考えられる。これは継承語としての日本語教育の延長線上にあると考えられる。ただ、現状の成人クラスを見ると、過去のセンターの主旨から外れてほとんどの生徒が外部の人間であることがわかる(資料2015年度1学期参照)。

そのクラスは、語学学校の様を呈し、生徒はセンター運営やボランティア活動にも参加する必要もなく、幼児、児童クラスとは、完全に別の団体に見える。

(目的)

- 成人クラスの赤字を解消する。
- 成人クラスの目的を考える。
- 成人クラスのカリキュラムの見直しを行う。

(資料)

2015年度1学期		
	生徒数	うち保護者
成1	25	6
成2	16	3
成3	12	3
成4	8	3
成5	7	1
合計	68	16

2012年度1学期		→	2012年度3学期		
	生徒数			生徒数	うち保護者数
成1	21		成1	8	0
成2	13		成2	8	0
成3	7		成3	4	0
成4	9		成4	10	3
成5	5		成5	5	2
合計	55		合計	35	5